

ストーカー未遂（??）

3～4年前、実家で暮らしていることに無性に息苦しさを感じていた私は、突発的に一人暮らしをし始める。知人に不動産屋を紹介してもらい、都心からわりと近く、学生向けの安いアパートがいくつもあるA区で、不安と期待混じりの一人暮らしは始まった。精神的にも不安定で収入もわずかしかかないのに、よくあんなことをしたものだ。選んだアパートは2万円代のトイレ共同、風呂なしの木造アパート。風呂は銭湯を使用したり、仕事先が実家の近くなので、たまに実家に寄り、入浴したり洗濯もしたりしていた。

アパートには部屋が7つくらいあり、ほとんどの部屋に人が住んでいるはずなのだが、なぜかいつもほとんど物音がしない。音がするのは、誰かがトイレに行くときや、外へ出て行くときくらいのものだ。女性もいたが、男性の方が多く住んでいるようだった。

当初それをさほど気にしていなかったが、トイレなどはとても気を遣うし、やはりトイレ付きにするべきだったと後悔した。誰かが部屋から出ると、その人がいなくなったのを感じてから、また別の人が部屋から出ていく。お互い出来るだけ顔を合わせないようにしている雰囲気があった。まあ、そんなものか。

同じアパートの住人に滅多に会わないのに、なぜか1人だけいつも顔を合わせる男性がいた。30～40歳くらいのアジア系の男性だった。最初はそんなに気にせず適当に挨拶していたが、外出するときやトイレに行くとき、廊下であまりにも頻繁に彼とだけ出会うのだ。しかも私が自分の部屋から出て行くと、「待ってました」とでもいうように、彼も自分の部屋から出てくるのだ。

なんで私が出て行くのが分かるんだ??

彼は日中ずっとアパートにいるようで、働いているようには見えなかった。ある時など、彼の友人らしき男性と一緒に出てきて私の姿を見て、挨拶しながら2人でニヤついているのだった。私はだんだん気味が悪くなってきてしまった。外国人だから気味が悪いというのではない、彼の行動に気味悪さを感じていたのだ。私は日中はだいたい外に出ていたが、夜はアパートで過ごしていたからトイレにも行かなくてはならない。でも、彼にまた会うかと思うと苦痛で安心してトイレにも行けなくなってしまった。

なんだかずーっと見張られているような気分。外から帰って来たときも音を立てないようにして、ササッと自分の部屋に逃げるように入る癖もついてしまった。それでも、やはり向こうは様子を伺っているようで、見付かって（！）しまうときもあった。

なんとなく怖さを感じるようになっていた私は、たまに自分の部屋に男友達に来てもらったりしていた。（てか、こっちの方がもしかして危険？）「私には彼氏がいるのよ」と見せかけてみただけだ。あまり効果はなかったが・・・。

ある日、仕事を終え最寄り駅からアパートに向かって帰ろうとしていると、声をかけられた。彼だった。「お帰りなさい、偶然ですね」と言ってきたような気がする。私は内心「ゲッ」と思ったが、仕方がない。アパートまでの道を一緒に帰る羽目になった。

もうよく覚えていないが、「働くために日本へ来ていて、家族がいっぱい自分の国にいる。

いま日本では料理の仕事をしている」などと言っていた気がする。でも、仕事の件に関しては私は信用できなかった。だって、彼には働いている気配が全くない。彼の部屋の前で大家のおばあちゃんが、「家賃をちゃんと払うように」とかなり長い間説教していたのを聞いたことがある。それに対して彼が怒鳴り返したりしていた。狭いアパートだから嫌でも聞こえてしまうのだ。あの様子だと、かなり滞納しているのだろう。

最後に彼は「私の部屋でお茶をしませんか？」と誘ってきた。内心、「きた！やはりそれが目的か」と思った。申し訳ないけど私はあなたに興味ないし、あなたの部屋にも入りたくない。ごめんなさい。心の中でそう思い、丁重にお断りした。それでも彼はあきらめず何度も誘ってきた。困った私は「親に見知らぬ人の部屋に入らないように言われているので」などとなんだか幼稚っぽいことを言うと、彼は苦笑いをしてとうとうあきらめてくれた。アパートまでの道のりがなんだかとっても長く感じた。

あのときは偶然会ったのだ、外で会うのはもうこれきりさ、と思っていた。でも別の日、駅からの帰り道、また彼に声をかけられた。そのときはちょっと世間話をしたくらいで彼はどこかに消えた。しつこくされなくてよかったが、2度も偶然があるものだろうか。こんな短期間に。不信感が募った。

そしてまた別の日、アパートに続く道で彼に声をかけられた。これは偶然ではない、彼は待ち伏せしているのだ、きっと。あきらめていないのかもしれない。幸いそのときもしつこくされず、というか私がうまく逃げ切ったのだが、いよいよ気味が悪くなってきた。たかが3～4回のことではあったが、この状況はマズイと思った。このままだとずっと、彼につきまとわれるかもしれないと思った。このままじゃいかんと思った。

当時、ろくなものを食べず体調も崩していた私は、もうこれ以上神経を使うアパートでの生活は無理と思い、とりあえず実家に戻ることにした。初めての一人暮らしは1年にも満たなかった。

それからもちろん、彼に会うことはなくなった。彼は単純にお茶したかっただけかもしれないし、話がしたかっただけかもしれない。外国人に冷たい日本社会の中で孤独もあったかもしれない。しかしやはり彼の行動は少し異常で、いやらしくて私には精神的苦痛だった。体調のことも考えると早めに引揚げて正解だったろう。

こんど1人暮らしをするときは、もう少し慎重に準備しようと思う。風呂は無理でも、トイレは絶対あった方がいい。あんまり男性ばかりのとはやめよう。(男性を差別しようという気はないが)。当たり前だが、女性にだって安全に一人暮らしをする権利はある。

まあ、思い出すと気分が悪くなるが、半分家出のようで、男性につきまとわれかけたあのアパートの暮らしも、一応、一人暮らしするための教訓にはなったかもしれない……。

(もうちょっとつづく……)

<通信 06.7月号より>